

# 薬屋談義

## 中国では肝機能障害に繁用されぬが

日本式の漢方では、患者さんを横に寝かせてお腹を軽く押さえる“腹診”により、漢方の処方を決めることが行われていきます。腕の脈を診る“脈診”は、中国でも昔からの診断法として行われていますが、中国には人にお腹を見せることを拒む文化があるようで、“腹診”は我が国独特のものです。この中で、漢方の初学者にもよく知られているのが、胸脇苦満（きょうきょうくまん）といわれる「鳩尾（みぞおち）から胸の脇にかけて充満した感じで苦しく、肋骨

の下を押すと抵抗感がある」です。

肝臓が腫れることにより、この症状が現われると考えられており、柴胡の入った処方、“柴胡劑”を選択する根拠になっておられます。それが、『胸脇苦満は柴胡の証』との話になります。中国では、肝機能障害に“柴胡劑”は余り使われないようですが、日本では急慢性肝炎に繁用されています。

### 医療用漢方のみで「効能効果」認める

そこで、健康保険で服用出来るツムラの『小柴胡湯エキス顆粒』や『柴胡桂枝湯エキス顆粒』には、肝機能障害に関する効能・効果が書かれています。薬局・薬店の店頭や配置で購入出来る一般

用医薬品に、肝機能障害に関する効能・効果が書かれていないのは、医師の診断や治療に拠らなければ一般的治療が困難だと厚生労働省が考えているからです。

このことは、『医薬品等適性広告基準』に示されています。昭和二十四年に制定された「医薬品適正広告基準」がもとになっており、医薬部外品、化粧品、医療機器が加えられて、昭和五十五年の改正薬事法の施行に併せて全面改正が行われ、現在に至っております。その【基準6】で示されていることは、以下の通りです。

6 一般向け広告における効能効果についての表現の制限

医師又は歯科医師の診

## 胸脇苦満は「柴胡」の証

断又は治療によらなければ一般的治療が期待できない疾患について、医師又は歯科医師の診断又は治療による場合には一般的治療が期待できない疾患とは、「胃潰瘍」「十二指腸潰瘍」「高血圧」「低血圧」「心臓病」「肝炎」「白内障」「性病」



なければ治療等が期待できない疾患について

医師又は歯科医師の診断又は治療によらなければ一般的治療が期待できない疾患とは、「胃潰瘍」「十二指腸潰瘍」「高血圧」「低血圧」「心臓病」「肝炎」「白内障」「性病」

